

中国業務通説

自民党の78年の治世は何を産み出したか

1949年に原作・グレアム・グリーン、監督・キャロル・リード、音楽・アントン・カラスにより第2次世界大戦後のウィーンを舞台にした映画「第三の男」"The Third Man"が封切られた。有名なプラーター遊園地 (Der Wurstelprater) の大観覧車の場面だ。ハリー・ライム(オーソン・ウェルズ)が友人のホリー・マーチンス(ジョゼフ・コットン)に言う。

「イタリアではボルジア家30年間の圧政下は戦火、恐怖、殺人、流血の時代だったが、ミケランジェロやダ・ヴィンチの偉大なルネサンスを誕生させた。

片やスイスはどうか？ 美しい友愛精神の下、500年にわたる民主主義と平和が産み出したものは何だと思う？ 鳩時計だ。」

"in Italy, for thirty years under the Borgias, they had warfare, terror, murder and bloodshed, but they produced Michelangelo, Leonardo da Vinci and the Renaissance.

In Switzerland, they had brotherly love, they had five hundred years of democracy and peace—and what did that produce? The cuckoo clock."

イタリアのボルジア家による圧政下の30年の治世はルネサンスを産み出し、スイスの平和と民主主義下の500年の治世は鳩時計を産み出した。いまでも続く自民党の78年(1945~2023)の治世は何を産み出したか。

いまNHK BSスペシャルで2つのドキュメンタリー番組が放送されている。再放送の「新日本紀行」と新作の「新日本風土紀」。

前者の新日本紀行は以前にこの通信で取りあげたことがある。1963(昭和23)年~1982(昭和57)年までNHK総合テレビで放送された紀行番組をフィルムからデジタル化した再放送だ。18年半に合計794本が制作され放送された。

後者の新日本風土紀は2011年4月1日のNHK BSプレミアム開局初日にスペシャル版として放送を開始した。日本各地に伝わる伝統や風習、その土地で暮らす人々の姿などを映像で綴る。

新日本紀行は50年前の日本の自然と庶民の生活を伝える。新日本風土紀はいまの日本の自然と庶民の生活を伝える。新日本紀行には破壊される前の日本の自然と人々の暮らしが描かれ、新日本風土紀には破壊後の日本の自然と人々の暮らしが描かれていると思う。自民党政権には地方、田舎を豊かにする気が無いのだから、地方、田舎が疲弊、衰退し、過疎化するのとは当然のことだ。

山田洋次(1931~)監督の映画「男はつらいよ」(1969~1995年までの26年間に48本が作られた。私は全作品を見た)は昭和の日本の街と日本人の心を描いた。だから今も多くの日本人はこの映画に郷愁、なつかしさを感ずるのだと思う。寅さんの毒舌の裏に憎めない優しさと思いやりがあった。しかし、いまの柴又には50年前の昭和時代の風情も人情も残っていない。山田洋次監督は2歳の時に家族とともに満州に渡り、1947年に16歳で日本に引き揚げた。山田洋次監督は権力に媚びず、庶民に寄り添う生き方を選んだ。



映画の大観覧車シーン。当時、周りは原っぱが広がっていた。私は20年前に家内とウィーンを訪れ、いまでも残るこの観覧車に乗った。

78年間、数年間を除き、自民党が日本を支配続けてきた。国民が自民党以外の政権を望まなかったからだ。安倍政権で自民党は政権交代が起きない政治制度、支配体制を確立したので、これからは選挙で政権を交代させることはできないだろう。

自民党の78年の治世は日本の自然と庶民の生活を破壊しただけだった。

昭和の日本社会は都市も田舎もともに助け合う共同体でなりたっていた。国も国民もみな貧しかった。自民党の治世は自分分さえよければと考える人間を作り出し、格差社会を作った。自民党は都市、地方の全ての組織を自民党の集票マシンに組み入れ、国民は搾取、食べ物の対象としか見ていない。

江戸時代以来、村社会の掟や慣習を破った者に対して成人式、結婚式、出産、病気の世話、新築の手伝い、水害時の世話、年忌法要、参詣旅の8つの活動から仲間外れにしたが、火事と葬式の2つの活動だけは仲間に入れ助けた。これを村八分（むらはちぶ。いま放送自粛用語）と言う。村の行政は寄合（よりあい）で決められ、村の行事は氏子中（うじこじゅう）できめられた。戦前に長野県のある村は村単位で全村民が満蒙開拓団を編成し満蒙に入植した。村の決定は多数決ではなく全員一致できめられる。かくして村組織、村社会は、運命共同体だった。戦後の村落共同体の解体は民主化に向かわず、自民党の下部組織に組み込まれていった。

我が家は東京新聞を購読しているが、毎日の朝刊の見出しを見ると日本が日々壊れていっていると感じる。自民党政権の腐敗、汚職、驕り、劣化が見出しに出ない日は無いだろう。新聞も多くの国民も自民政権の無能、無為無策を批判し、嘆くが、自民党政権を止めさせよう、交代させようという意見はまったくでない。自民党批判の後につねに「自民党政権は問題があるが、野党がそれ以上に無能で政権を任せられない」と言う言葉が続く。かくして自民党政権にはどんなに腐敗、墮落しても政権を失う心配はない。中国共産党政権も、朝鮮労働党政権も国民の支持を失ったら、政権を失うという危機感がある。しかし、自民党政権は国民が全く怖くないのだ。日本国民は自民党政権からこれほどナメラしてるのだ。

自民党に政権を委ね続けたら、日本はいずれ行き詰まり、破滅・破局を迎えることになるだろう。いまの自民党政権は機能不全（上杉隆「官邸崩壊」）に陥り、政権の真似事をしているだけだ。日本は清朝末期と同じ状態で、政治家と官僚が蓄財と保身、私利私欲に走っている。自民党政権は自壊、自滅により終焉を迎えるだろうが、政権を終える時は日本国家、日本国民を道連れにして政権を終えるようにするだろう。

私は日本の将来に悲観的、絶望的だが、多くの日本人は自民党に政権を任せて何ら心配も不安も無いのだから、彼らは日本の将来に楽観的、希望的なのだろう。私は70年余生きてきたが、日本の政治が私の望む方向に向かったことは一度も無い。また私が日本の政治に何を望んでも、何ら影響を与えることも無い。いままで選挙で私の投票した人が当選したことは一度も無い。

私には子供たち、孫たちがいる。私は日本の将来には気にならず、関心は無いだが、子供たち、孫たちの将来には気になり、関心が有る。しかし、子供たち、孫たちが生きる時代は私が生きた時代よりも過酷な、厳しい時代を生きることになるだろう。自民党政権が国民を見捨て、日々劣化しているからだ。私も私の子供たち、孫たちは日本人である以上、自民党政権の為すがままで生きてゆくほかないだろう。横井幸夫（元東レ株式会社）

